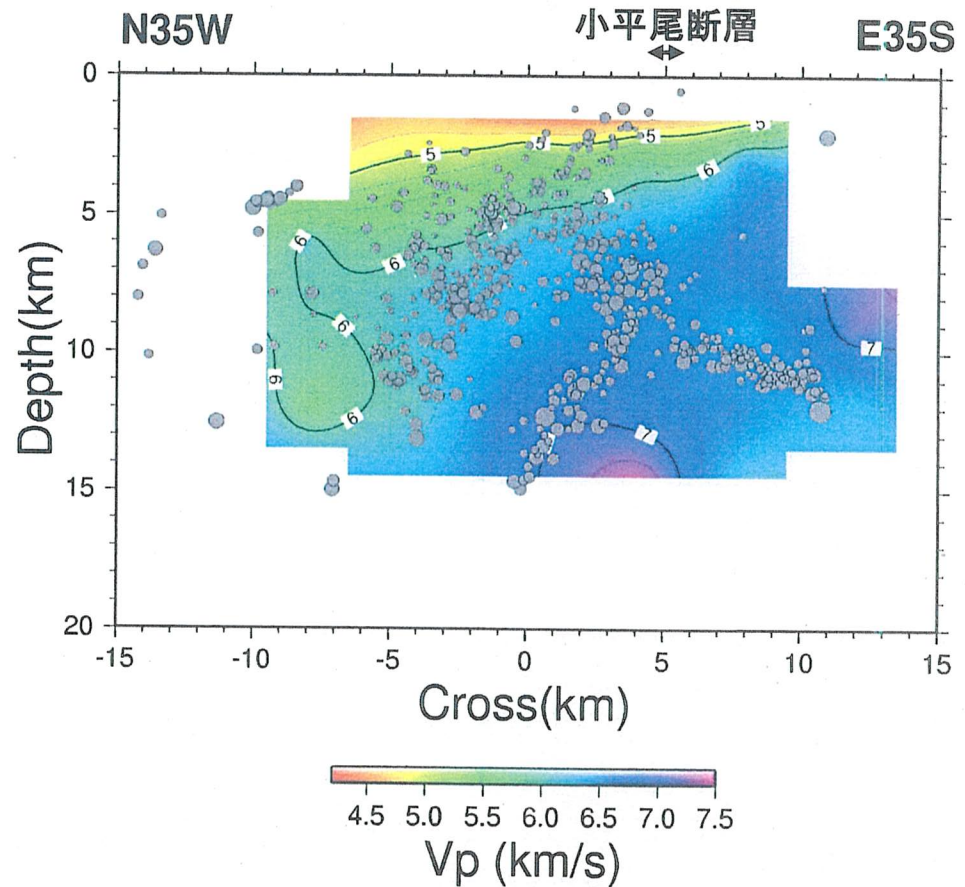


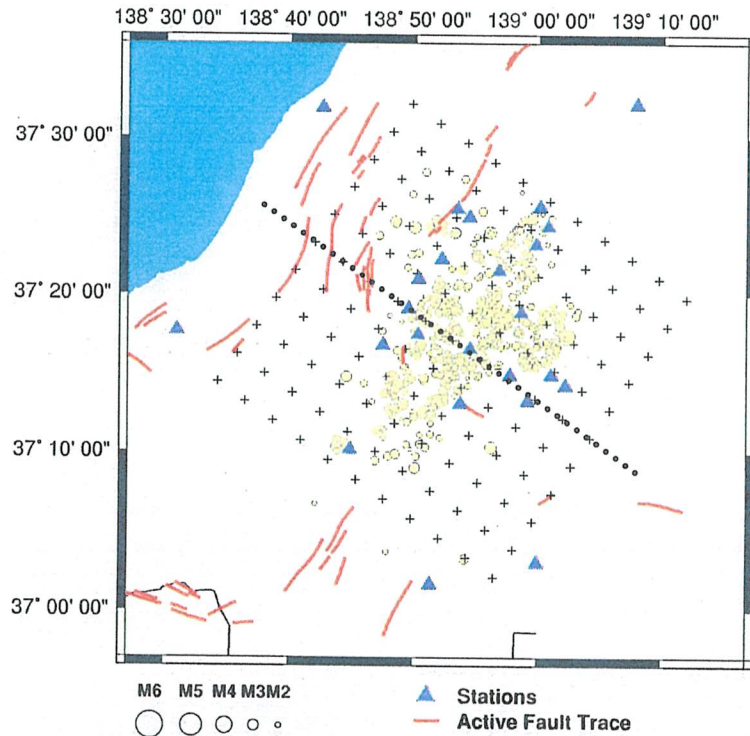
# 余震分布と速度構造モデル

Double-Difference トモグラフィー法 (Zhang & Thurber, 2003) の適用

- ・グリッド配置
  - Xgrid (ES35° +): 4km間隔
  - Ygrid (NW55° +): 4km間隔
  - Zgrid (D +): 3km間隔
- ・初期震源: 酒井・他による震源
- ・初期速度構造: Takeda et al (2004)を参考
- ・観測点総数: 57点
  - (14点: 臨時観測点、43点: 定常点)
- ・使用した地震の総数: 625
- ・Rays (absolute) P: 20238, S: 19700
- ・DDs (Double Difference) P: 85500, S: 86000



上図. 推定されたP波速度構造と震源分布を示す。



左図. 使用したグリッド配置、観測点分布、求めた震源の震央分布を示す。点線は上図の断面図の位置を示す。